

総務産業常任委員会審査報告書

令和3年9月24日

飯綱町議会議長 大川 憲明 様

総務産業常任委員会委員長 風間 行 男

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第77条の規定により報告します。

記

事件番号	件名	審査の結果
議案第54号	令和2年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議案第59号	令和2年度飯綱町住宅地造成事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議案第60号	令和2年度飯綱町水道事業会計決算の認定について	認定
議案第62号	令和2年度飯綱町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	認定
議案第68号	飯綱町過疎地域持続的発展計画の策定について	可決
陳情第3号	緊急支援について	採択
陳情第4号	辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について国民的議論を行い、憲法に基づき公正かつ民主的に解決するべきとする意見書の採択を求める陳情	継続審査
陳情第5号	貴議会における下記事項の議員提案の要請	継続審査

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑、意見について報告します。

○議案第54号 令和2年度飯綱町からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計歳入歳出決算の認定について

質 疑：基金の関係はどこに記載されているのか。

回 答：行政報告書は336ページ、決算書は226ページに記載している。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で認定とした。

○議案第 59 号 令和 2 年度飯綱町住宅地造成事業特別会計歳入歳出決算の認定について

質 疑：なし

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で認定とした。

○議案第 60 号 令和 2 年度飯綱町水道事業会計決算の認定について

質疑①：三水地区において 600m ほど石綿管が残っているとのことだが、すべての布設替えの完了予定はいつ頃か。

回答①：現在実施している管路台帳整備事業で、町内全域の管路を調査している。全体の老朽管などの把握を行ったうえで、優先順位をつけて布設替えを実施していくため、現時点では石綿管の布設替えの完了日は未定。

質疑②：石綿管について、健康被害はないか。

回答②：石綿管を通った水の水質について、健康被害はないと報告されている。

意 見：石綿管はできるだけ早く布設替えをお願いしたい。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で認定とした。

○議案第 62 号 令和 2 年度飯綱町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

質 疑：なし

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で認定とした。

○議案第 68 号 飯綱町過疎地域持続的発展計画の策定について

質疑①：地域主体の移動手段の確保とあるが、i バスを充実させればよいのではないか。企画課では全体の構想をどのように捉えているのか。

回答①：過疎計画中の「地域による移動支援事業」と記載している事業が、地域で

支え合う、地域主体の移動手段を示している。担当課のイメージとしては、旧小学校単位で集落支援員を中心に運営し、地域住民が有償ボランティアとして交通弱者の移動を支援する仕組みを研究したいと考えている。

質疑②：不特定多数の町民を乗せることになると、旅客運送となり、結局 i バスや路線バスと同じような形態になるのではないかと。

回答②：不特定多数ではなく、集落の人が集落の移動困難者を運ぶ、地域での助け合いによる運送を想定している。先進事例では、ボランティアが移動だけでなく買い物も手伝い、ガソリン代程度のお礼を受け取っている。集落内で移動困難者を助け合う事業は、過疎対策の事業モデルにも挙げられている。道路運送法に対応しながら、公共交通を補完する「地域による移動支援事業」を研究したい。

質疑③：この事業は三水地区のみの事業となるのか。

回答③：過疎計画における事業は三水地区が対象となる。

質疑④：町の農業の現状からすれば、計画中の農業分野の対策について、記述する順番が違わないか。まずは農地整備などの生産基盤の強化や農業者の減少対策などが重要であり、次に農業法人や就農者への支援、次に6次産業化の推進という順にするのが良いのではないかと。また、林業については、所有者の高齢化や担い手不足もあるが、民有林の境界が確定していないことが問題と考えている。

回答④：過疎計画には、農地の基盤整備について「農用地基盤整備事業」として記述している。民有林の境界を明確にする事業については、過疎計画には含まれていないが、森林環境譲与税の充当事業として、森林境界を明確にする事業があるので、そちらで対応していくことになる。

質疑⑤：有機農業を進めるにあたり、化学肥料ではなく堆肥等を使うことになるが、町ではストックヤードを持っていない。可能であれば考えてほしい。

回答⑤：生ごみの堆肥化について、過疎計画には記載していない。SDGs や循環型社会の構築という考え方を重視する社会になってきている。総合計画後期基本計画において参考にしたい。

質疑⑥：DX 推進事業は、どの程度の規模のものを考えているのか。

回答⑥：DX 推進事業は、行政のデジタル化と地域のデジタル化という2つの方針で進めていく。行政のデジタル化とは、オンライン申請による住民票など各種証明書の発行や児童手当等の手続、またデジタル技術による事務の効率化などを想定している。地域のデジタル化については、過疎計画において「いづな DX 推進事業」、「ICT 農業・スマート農業推進事業」、「LPWA 導入支援事業補助」として記述している。現在インターネットとモノをつなぐシステムである IOT が注目されており、町内では三水用水の水門をスマホで開閉するシステムがそれにあたる。河川にセンサーを付けて水位を監視するシステムや、農業用ハウス内にセンサーを付けて温度と湿度を管理するシステムの農家への導入支援などを想定している。こういった IOT のシ

システムを様々な分野に取り入れて、町民がデジタル技術を使って安心な生活、便利な生活ができる基盤を作るべく研究していく。

質疑⑦：過疎計画は、総合計画との整合性を持たせた上で SDGs も盛り込んだ町の発展計画と認識しているが、国に提出した際に却下されることはないか。また、様々な課題に対する具体的な事業内容や予算の裏付けについては、実施計画のローリング方式で実施していくのか。

回答⑦：議会に提出した過疎計画案は、県の協議が終了しており、そこで細かなチェックを受けている。過疎対策事業債を含めた地方債の充当については、3年間の実施計画に盛り込むようになる。既存の補助施策では対応できず、取り組みづらかった事業について、過疎対策事業債の活用により、新たな展開が可能になると考えている。

質疑⑧：総合戦略は後期基本計画と一本化し、過疎計画とセットで事業を実施していくのか。3年間の実施計画で、過疎計画の具体的な事業と財源を明確にしていくという考え方でよいか。

回答⑧：総合計画は、10年間の基本構想、5年間の基本計画、3年間の実施計画で構成されている。実施計画には、事業費や過疎対策事業債を含めた地方債が記載されるので、過疎計画の個別事業が明確になると考えている。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

○陳情第3号 緊急支援について

賛成討論：GoTo トラベル事業の期間延長については、すでに終わっている事業なので気になる部分ではあるが、趣旨は理解できる。

賛成討論：趣旨では概ね賛成できる。

採決の結果：全員賛成で採択とした。

○陳情第4号 辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について国民的議論を行い、憲法に基づき公正かつ民主的に解決すべきとする意見書の採択を求める陳情

継続審査とした。

○陳情第5号 貴議会における下記事項の議員提案の要請

継続審査とした。